

平成 28 年度

第 1 回恵那市総合計画推進市民委員会 会議録

日時：平成 28 年 8 月 3 日（水）

午前 10 時 00 分から

場所：恵那市役所 会議棟大会議室

1. 委嘱書の交付
 2. 会長あいさつ
 3. 市長あいさつ
 4. 会議の公開、公表について
 5. 議事
 - (1) 総合計画の概要及び推進市民委員会の役割について
 - (2) 第 1 次総合計画の達成状況について
 - (3) 第 2 次総合計画 人口減少対策 主要事業について
 - (4) 若者会議の報告について
 - (5) 推進市民委員会による総合計画の進行管理について
 - (6) 総合計画推進市民委員会部会の設置について
 6. その他
 7. 閉会のあいさつ
-

■事務局（進行） 本日、委員会終了後の部会に出席される方と、7月16日に開催しました若者会議から5名の方が同席しています。この点、ご了承していただきたいと思います。

それから、若者会議に出席された5名の方につきましては、今後の委員会、部会に分かれて出席していただく予定でございますので、この点についてもご了承下さい。

また、市側は、組織再編によりまして、従来の部長に加えまして、分野横断的に仕事をする政策推進課が7名今回から出席させていただきますのでよろしくお願い致します。

これより第1回恵那市総合計画推進市民委員会を開催させていただきます。

はじめに、3人の委員が交代されていますので市長より委嘱書の交付を行います。お名前を申し上げますのでその場でご起立いただき、委嘱書を受け取り下さい。

1. 委嘱書の交付

■事務局（進行） 3人の委員が交代したので委嘱書を交付する。

[片山委員、西部委員、松井委員に委嘱書を交付]

■事務局（進行） それでは、新しく委員になられた方から一言ずつあいさつをお願いしたいと思います。はじめに片山信委員お願い致します。

■片山委員 恵那公共職業安定所の片山です。メンバーの中では年齢層からすると大分下の方になるので恐縮しております。

ハローワークでは、障がい者雇用を担当しています。今後とも、みなさまのお力をお借りしながら、ご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますがよろしくお願い致します。

■事務局（進行） 続きまして、西部良治委員、お願いします。

■西部委員 長島町地域自治区の西部です。恵那市の将来を決める重要な会議に参加させていただくことができまして大変光栄に思っております。と同時に、非常に大きな責任があるのではないかと考えておりますので、実を引き締めて会議に臨んでいきたいと思致します。何卒、よろしくお願い致します。

■事務局（進行） 続きまして、松井勝広委員お願い致します。

■松井委員 恵那南高校の教頭の松井です。恵那南高校魅力化プロジェクトでは恵那市に多大なるご協力、ご支援をいただきありがとうございました。今後もよろしくお願い致します。

■事務局（進行） ありがとうございました。それでは、次に会長あいさつということで、西村会長よりあいさつをいただきたいと存じます。よろしくお願い致します。

2. 会長あいさつ

■会長 会長あいさつということで、時間がないと思ったのでメモを作っておきましたので、配布資料を見ていただきたい。

ここにあるように、恵那市の第2次総合計画の特徴としては基本的に3つあるというふうに考えています。

1. 総合計画は総花的になる。今回のキーワードは「選択と集中」というキーワードで全体があります。皆さんさまざまなご意見があると思いますが、その中で皆さんの知恵を発揮していただき、「選択と集中」という観点で議論いただきたい。

2. それぞれの団体、分野によって優先する課題があるが、恵那市にとっては人口減少対策と財源の確保・・・行政を運営する資金的背景の確保という2つの観点から全体を作られているということを理解していただきたい。

3. 大きな特徴として、今回はそういうものを絵に描いた餅に終わらせない。「計画の実現に向けて」という独自の章を設定しています。そこに書かれていることは、「選択と集中」ということなので、総合行政の観点で組織横断的にやっということが1つ。2つめは、地域自治区を基盤とする地域計画を総合計画の実践の計画として組み込む。

地方自治法等々の改正を受けて地方の時代の新しい行政のありよう、市民のありようという線を踏まえて、今話したようなキーワードで設定したつもりです。部会で検討すべき視点については、後ほど裏面も含めて紹介したいと思います。

会長あいさつということで、今日は皆さんよろしくお願ひします。

3. 市長あいさつ

■事務局（進行） 続きまして、可知市長よりあいさつを申し上げます。

■市長 みなさん、こんにちは。今日は、大変暑い中、第1回総合計画推進市民委員会を開催させていただきました。只今、西村会長からもご挨拶がありましたけれども、しっかりと作っていただいた総合計画をいかに実施していくかが皆さんに願ひする課題であります。せっかく作ったものが、絵に描いた餅にならないよう実践できればと思います。

今日は部会に加入していただける方もおられますので、こうした、これだけのメンバーの方にお集まりいただける会議は初めてだと思ひます。それほど、恵那市のこれからについて、まちづくりについて、皆さんが真剣に考えていただいているということについて深く感謝を申し上げたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。

わたくしも、長年、市民の皆さんにいろいろなところでお会いしてきた。例えば、地域懇談会、中学生と語る声、若者の声もいろいろな立場で聞かせていただきましたけれども、

最終的に考えると、市民の皆さんは恵那市をずいぶん愛してみえる、ふるさとを誇りに思っている。しかし、いろいろな事情で外へ出ていってしまっただけで帰れない方々が大変多いと思います。

今回の総合計画は人口減少という大きなテーマがあります。人口が増えているのは東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県、愛知県、沖縄県。これだけに過ぎません。あとは全部人口が減っています。東京都は1年に8万6千人の人が増えています。中津川市の人口が8万1千人ですから、それを上回るまちが年に1度出てくると、こういうことも言えると思います。一方、恵那市は人口が大変減少しています。昨年の国勢調査でいきますと2630人、4.9%の減少であります。この2,630人は、現在の上矢作町は1961人、串原が786人、あわせて2,747人ですので、この2つのまちが5年間でなくなったというほど人口の減少は厳しい状況になっています。特に若者が少なくなっています。高齢化率も32.5%を超え、東濃5市で一番人口減少の率、高齢化率が一番高いまちでもありますので、そういうことをしっかり見極めて、どう対応するかということを作っていたのが今回の総合計画であります。大きなテーマは人口減少と市の存続であります。10年後の恵那市が存続できるかがこの総合計画によって左右されます。

平成28年が総合計画のスタートの年度となります。この総合計画を受け実施計画を策定し、予算編成をさせていただきました。一般会計280億5千万円余。特別会計、企業会計全体で574億4千万余という予算を提出させていただきました。4月からその実行に向けて進んでいるわけでございます。まさしく、第1歩を踏み出したと、こういうことでございます。後ほどそのことについて詳しく説明をさせていただきます。

そのために市役所の組織も編成を変えました。総合計画を着実に実行する組織にしようということで、少し市民の皆さんにはどういう組織になったのかよく分からないと、今までの総務部とか企画部がないのではないかと、そういう話もありますけども、わたくしどもとしては、市役所の組織を上げてこの第2次総合計画を着実に実行していきたいと、こういうことの組織編成でございます。政策推進監という部長級のトップの下に、子育て、人口減少対策、危機管理のチームを作り、そこにキャップを置いて、特に縦割りになりがちな行政を横断的に総合計画を進めるためにやっということでありますので、これも後ほど説明をさせていただきます。

もう一つが、人口減少対策基金を創設しました。当然、お金もかかってきますので、それをフォローするために基金をつくりました。スタート時は12億9200万円。今年はそのうちの9200万円を取り崩して充当していますが、現在、まだ12億余ありますので、これをいかにして生かして恵那市の費用対策・・・特に人口減少対策に充てていくかということが課題になっていきますので、この辺のご意見もいただきたいと思っております。

そして、今日は部会を設置させていただきますけども、総合計画の柱である「安心」、「快

適)、「活力」に対しそれぞれの部会を作ってくださいまして、委員(部会員)と行政職員が入り、部会で十分検討をいただく、こういうことをございます。

そして、総合計画策定時に市民公聴会を開催させていただきました。そのとき、今後の推進について、若者会議を設置して、若者の声をしっかり聞いていこうと申し上げた。去る7月16日に第1回の若者会議を開催させていただきました、45名以上の方にご参加いただき、熱心な協議をしていただきました。誠にありがとうございました。

そうした中で、総合計画市民推進委員会は西村会長の下に、総合計画がいかにか推進されているかをしっかりと見ていただき、さらに時代が代わってきますので、当然、見直しということも出てきますので、そのことについて、この市のまちづくりについて、また、的確かどうかということのご判断をしていただくということで、大変重いお仕事をしていくことになるかと思いますが、すべて恵那市のこれからのまちづくりについて、市民の幸せのためにということをございまして、皆さん方にご努力いただきますが、どうかよろしくお願い致します。

もう一点。皆さんの手元に「恵那市の経営」という厚い冊子があります。これは、毎年、恵那市の総合計画、もうひとつ行財政改革大綱と。その進捗がどのようになっているのかということをご報告するために作った資料でございます。はじめはまったく薄いものでしたが、年を重ねるごとにこれだけ厚くなってきました。これを見ていただければ、恵那市がどんな仕事をして、どのような効果を上げているのかということも分かっていただけるとおもいますけれども、是非、これを見ていただくということと、毎年、これを発行しているということで、ほかの自治体ではないことをやらせていただいているということをございますので、よろしくお願いを致します。

どうか、皆さん方のこれからの市に対するご意見、ご審議をしっかりとさせていただきます、より良いまちづくりにしていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願い致します。

4. 会議の公開、公表について(確認)

■事務局(進行) 恵那市審議会等の会議の公開に関する指針により、本委員会は公開ということになりますので、ご了承をよろしく御願致します。

それでは、早速、議事に入らせていただきます。議事の進行は恵那市総合計画推進市民委員会設置要綱の規定によりまして、西村会長に御願致します。

5. 議事

(1) 総合計画の概要及び推進市民委員会の役割について

■会長 事務局より説明を求める。

[事務局から資料に基づき説明]

■会長 もう一度会長メモを見て下さい。わたくしのほうから部会、市民委員会にお願いしたいことを書きました。

計画を実践していくわけですから、現場での問題点をどう解決するか。徹底した現場主義といいますか、現場で考え、現場で解決するという。それと、こういう計画にしましょうと決めてあるのですが、それが本当に効果的かどうかということがあるので、常に業務改善、見直しを含めた現場主義に徹してもらいたい。

2つ目は、人口減少の時代なので、例えば、施設を作るとき、適正な規模で造ることは当たり前ですが、適正規模というのはいったいどれぐらいの面積、どれぐらいのものなのか。家も子育てするときの空間と、子どもが育った後では違い、育った後は空き部屋が発生する。なので、空き部屋は、老後をゆったりするためには壁を最初から作らないということもある。転用を組み込んだ施設の規模を設計で工夫するというでないと財政の節約はできないということです。

それから、既存施設はたくさんあるので、その施設が 365 日分の何日使われているか。例えば、Aという施設が 100 日使われている、Bという施設が 100 日使われているならば、1つにできるとか。メンテナンスもそうだが回転率も含めてよく考えてもらいたい。そういうことを部会では審議してもらいたい。

そこで、裏面をご覧ください。例えば、学童保育の話がある。放課後や週末に塾に通えない児童生徒の学習支援をする仕組みは国が 3 分の 1 補助してやっています。ではこれが現場で行われているか、というようなことでしっかり見直してもらいたい。これは教育委員会の業務かもしれないが、コミュニティースクールという議論にもなるだろうが、これを更に発展させて郷土芸能、暮らしの伝統というメニューを膨らませる。学習指導要領が今度改訂されますが、そういうものも併せてより豊かなメニューを作る。そういうところで退職した教員にもフルに参加していただく。経験を地域に生かしていただくと、そういう教育レベルアップも地域としてやっていく必要がある。

2つ目は、地域祖父母モデル事業というのが兵庫県で開始されています。僕も孫が里帰りすると元気になります。お金も使いながら、海水浴でも行こうかということになり元気に

なります。そういうモデル事業をやっています。3世代が一緒にやる。昼間は高齢者や独居の人が食事会をし、夕方になるとそこが学童保育の場にもなる。高齢者、子育ての問題は、同じ部局内で連携できて、合わせ技でできる。

さらに、(1)の塾の話と3世代モデル事業の合わせ技をすれば、教育委員会事業と福祉事業が同じ施設で展開できるということもあり得る。合わせ技1本というのが集中の意味です。何かを切り捨てるということではなく、そのやり方を合わせ技1本ということ。そういう発想が総合計画にはありますので、是非、そういう視点で、自分のところが切り捨てられた、軽んじられたのではなく、合わせ技1本にすることで、新しいレベルに引き上げよう。これが「選択と集中」の意味あいだということを理解していただきたいと思います。

それから、(4)ふるさと納税について。昨年度実績で概ね1,649億円だったと思います。概ね1,700の市町村があり、平均すると1億円です。恵那市はいくらか知っていますか・・・聞くところでは恵那市では300万円～400万円だったが600万円ぐらいにまで上がっていますが、桁が違う。

一方で、2015年の関係で、5つの自治体まで寄付することができるようになり簡略化しました。その結果、恵那市の市民が他の自治体にいくら出していると思いますか。ということ、多分、部長は知っていますので・・・要は、プラスマイナスすると入ってきているのが数百万円です。42億円収入があった宮崎県都城市や、10億円台の収益のある長崎県対馬市などがあるわけです。なので、金がないなら稼がなきゃ。贈答で返していたりしますが、原価仕入が3割ぐらいあればその事業は経営できるわけです。となると、例えば1億円稼いだら3千万円ぐらいはバックして事務経費を引いても手元の5千万円残る。そういう視点もきちっと議論していただきたい。5千万で若者支援に金が要るなら回せばいい。そういう事業者の視点というか、行政改革などして節約して稼ぐ・・・空いている倉庫は無駄だからそれをいかに活用するか考える。地域で金を回す・・・そういうことも含めて考えていただければというふうに思っているところです。

それから、銀行関係や企業家の方もいらっしゃるのですが、是非、部会で議論していただきたいのですが、恵那市の持っている名古屋圏の周辺部の潜在力を本当に発揮する仕組み、取り組みが行われているか。潜在力とはどういうものだと金融家、企業家は考えているかを考えてほしい。リニアインパクトの恵那市に与えるプラス効果はいかほどか。それをさらに引き上げるのに何が必要か。そういうことも提案していただきたいし、分析も見識も披露していただきたい。そういうふうなことを部会では議論をお願いしたい。

そういうことを考えながら、是非。部会では真摯な議論をお願いをしたいということもあります。

もし、ご意見があれば伺いたい。よろしいですか・・・

では一通り報告していただき最後にまた意見を聴きたいと思います。

- (2) 第1次総合計画の達成状況について
- (3) 第2次総合計画 人口減少対策 主要事業について
- (4) 若者会議の報告について

[事務局から資料に基づき説明]

■会長 随分、報告が続き申し訳ありませんでした。推進市民委員会の課題、どういう視点から何をどう議論すべきか、ということについて大体ご理解いただけたでしょうか。

総合計画を策定するときには住民の意見を聴いてそれを盛り込んだ計画を作るという趣旨があるが、ここはそうではなく、決まったものをいかにどう実践するか。それを行政の独り相撲ではうまくいかないの、市民からの提案、工夫を取り入れて実践していくのかというのがこの委員会ということです。実践する際の諸提案、工夫を組み込めば事実上の進行管理になる。行動するための委員会だということをしっかり理解していただきたいというふうに思います。

若者会議に参加した人から、発言があれば代表して1人お願いします。

■若者会議（村上） 山岡町に住んでいます。今回、若者会議に初めて参加させていただいて、市の取り組みになかなか市民として参加する機会がなかったので、こういう機会があるのだと思って、本当に有り難い時間をいただいたと思いました。

それで、恵那市としては、子育てしやすいように、人口が増えるようにという方向で力を入れて進んでいるということをその会議の時にも、市の職員に説明をいただきました。私が感じたことは、市としていろいろな政策を考えていて、中でも目玉だと思われるのが移住定住推進事業だと思ったのですが、いろいろな事業でどれもお金を少しもらえる。だけれども、自分で払う金額がとても大きいなもので、共働きや旦那さんがすごく稼ぐとか・・・仕事がないと政策のメリットを受けることもできないというふうに思っています。子育てしやすい環境を考えたときに、預けやすいとか放課後児童の預かり場所のことばかり注目されているが、それはずっと子どもを預けて、親が働くということが前提であり、そうすると、1人産み、2人産み、お金がかかるからまた自分も働く。子どもには忙しいから相手ができないごめんね、ということになって、他人に子育てをお願いする形になりやすいのかなと、そういうふうに思っています。その形の中ではなかなか子どもをたくさん産みたいというのはちょっと難しいのではないかなあというふうな思いを持っています。

私は、この中の資料とは違う思いを持ったので、あえて皆さんの前でお話させていただ

こうかなというふうに思いました。

今、都会は人口が増えていてここは減っているけれども、都会を見ると仕事に夢中で子どもは狭い部屋で遊ばせて、他人が面倒をみる。食べ物はコンビニ食など自然にできたものではない。子どもも大人も病気が拡がっていく。孤独で隣近所に誰が住んでいるのか、声も掛けたこともない、誰か分からない。そんな都会の様子っていうのは皆さんご存じだと思ひ、そっちに向かっていくというのは違うと思ひるので、恵那市でも小学校の子はゲームばかりしている。一緒に遊ぼうと言ってもゲーム。自分の意見を持っている子に出会うことが少ないです。自分の頭で考えることができない。

でも、恵那にはこんなに自然がたくさん残っているし、まちのお祭りごとでみんなが協力し合う輪というものがあるので、それはすごく魅力的なことだと思います。子どもの頃に自然の中でいっぱい遊んで、お年寄りや近所の知らない人でも叱ってくれたり、いろいろなことを教えてくれたり、そんな中で育った子どもと、父母が働いていて、預かってもらって、一生懸命勉強もしたり、友だちと遊ぶのだけれども、室内で過ごすことが多かった子どもたち。高校、大学に行くときは、今の状況では、進学する高校や大学は恵那には少ないので、出ていく人もたくさんいると思ひけど、戻ってこようと思ひる子はどっちの育て方をされた子なのか。そのような想像もしていただけたらいいなと思ひました。

■会長 こういう意見を部会等でまた参考にしていただければと思ひます。

総合計画を策定するときから、地域をどうするかということがあられるけれども、次のこの地域の担い手…次世代の人たちの暮らしが成り立つようにすることが我々先輩の最低限バトンタッチをしなければいけないという思ひがあって、一昨年から次の世代の意見を聞こうということで、その推進バージョンとして「若者会議」を開催した。

メモを見ると、産科、産婦人科の議論が出ていますが、恵那病院には伊藤先生がすでに確保されていて、研修をやられていて来年4月には着任する。産むだけではなく、助産師、小児科についても、既に開院前に4名の専門医が関われるよう特別研修を受けています。そういう態勢が現実に進んでいます。でも、見ていると前と同じような「産科を作れ」というような議論となっている。担当部局は、意見をランダムに聞くのではなくて、きちんと情報提供をしていないと若者のレベルが上がらないと、私は当日行ってちょっと思ひたところでした。

そういう問題と、若者会議は「若い世代のニーズを聴いて」とあるが、ニーズと言うのは若い世代の要望なのですが、要求ではなくて、例えば、こういうふうな事業プランの提案とか、プレゼンのような場に引き上げていかないと。総合計画策定途上の「若者会議」とは意味合いが違うということについての意識が少し弱いなあという感じが当日も思ひました。

今後、継続的にやっていきたいので、各部会で検討された事業の提案、中身の吟味と、

それが「若者会議」の委員の具体的な行動へつながるような部会にしてもらいたいという思いを少し思っています。

よろしいですか・・・時間の関係もあって次へいきますが、いいですか。最後に何かあればまたご意見を下さい。

次に進行管理と部会の設置について一括して事務局より報告を受けて、ご意見があればご意見を聞いて、この委員会として終了して、部会に移りたいと思います。

(5) 推進市民委員会による総合計画の進行管理について

(6) 総合計画推進市民委員会部会の設置について

■会長 事務局から説明を求める。

[事務局から資料に基づき説明]

■会長 各部会の部会長に権限移譲ということで現場を仕切っていただく。また、必要があれば、推進市民委員会に部会から報告していただければと思います。

冒頭でお話をさせていただきましたが、とにかく現場主義、現場の知恵を十分発揮して下さい。発揮する上で、自分の部会をはみ出すことがあるかと思います。そういうことも、各部の部会長にお任せしますので必要があれば取り上げてほしい。部会間の交流、意見の往復というようなことも各部会の部会長にお任せします。

また、部会ですので、第1回はこういうことをテーマにしよう、第2回はこういうことをテーマにしようなど、テーマがあるかと思います。そのテーマを議論するのに必要な人材が部会に配置されていないことが仮にあったとすれば、それは部会長の判断で、オブザーバーというか臨時参加者という扱いで柔軟にやって下さい。部会でしっかりした成果を上げていただかないと有効なものになっていきませんし、冒頭でお話ししたような趣旨を実践する委員会にはならないと思いますので、是非、4人の部会長には尽力のほどお願いしたいというふうに思います。

よろしいでしょうか。

■委員（特になし）

今日は盛りだくさんの議題となつてしまい申し訳ありませんでした。

最後に、閉会のあいさつというところにかかせていただいて、会場を移動していただいて、部会を早速開会したいと思います。

6. その他

7. 閉会のあいさつ

■副会長（樋田） お疲れ様でした。これからまだ部会があり、大変な2時間だなあという気がしておりますけれども、一方的な説明、報告に近いかたちで、消化不良かもしれませんが、全体を通して言えるのは、「人口減少」と「財源の確保」ということが大きな課題になってくるのだろうというふうに思います。

その中で、一人一人が主人公だという思いで部会を運営していただき意見を出していただき、この委員会に反映させていただけるといいかなあと考えていますのでよろしくお願ひ致します。

それではこれで委員会を閉会とします。ありがとうございました。

〔 閉 会 〕

閉会：11：40

各部会の開催結果

各部会共通議題

- 1 部会長、副部会長の選任
- 2 今後の進め方について
- 3 次回部会日程について

安心部会

役 職	氏 名	選出団体等	備考
部 会 長	佐々木 厚	恵那テクノパーク協同組合	
副部会長	磯部 数子	恵那市放課後児童クラブ連絡会	
	片山 信	恵那公共職業安定所	
	菅野 悦子	恵那市社会福祉協議会	
	佐々木 透	連合岐阜東濃地域協議会	欠席
	坪井 弥栄子	三郷地域自治区	
	平井 はな恵	若者会議	
	水野 武郎	恵那市健康づくり推進協議会	
	村上 紗世	若者会議	
事 務 局	平林 剛 寿	市長公室危機管理チーム政策推進監	
〃	光岡 伸 康	市民福祉部長	
〃	加藤 真 治	市民福祉部子育て支援チーム政策推進監	
〃	山村 茂美智	保健医療部長	
〃	小坂 喬 峰	経済部商工振興・雇用創出チーム政策推進監	欠席
〃	松村 和 佳	教育委員会事務局政策推進監	
〃	市岡 文 秀	消防長	
〃	鈴村 衛 功	総合戦略・人口減少対策チーム主査	

(敬称略)

決定事項等

- 1 部会長、副部会長の選任
 部会長 佐々木 厚
 副部会長 磯部 数子
- 3 次回部会日程について
 平成28年9月21日(水) 13:30～

快適部会			
役 職	氏 名	選出団体等	備考
部 会 長	伊 藤 常 光	恵那市地域自治区会長会議（東野）	
副部会長	宮 崎 光 雄	恵那市文化財保護審議会	
	神 尾 寛 和	中野方地域自治区	
	佐々木 亀久雄	明知鉄道株式会社	
	鈴 村 今 衛	杣組	
	原 田 晴 明	上矢作地域自治区	
	平 井 一 兵	飯地地域自治区	
	安 江 昌 俊	恵那市農業振興地域整備促進審議会	
	吉 田 理 恵	十六銀行恵那支店	
	渡 邊 敏 夫	恵那市景観審議会	
	山 田 浩 誠	若者会議	
事 務 局	服 部 紀 史	まちづくり推進部長	兼活力①部会
〃	鷺 見 典 幸	基盤整備部長	
〃	可 知 高 弘	市長公室総合戦略・人口減少対策チーム推進監	
〃	林 雅 樹	基盤整備部リニアまちづくりチーム政策推進 監	
〃	福 平 栄 久	総合戦略・人口減少対策チーム課長補佐	
〃	小 原 朱 音	総合戦略・人口減少対策チーム主査	
			(敬称略)
決定事項等			
1 部会長、副部会長の選任			
部会長 伊藤 常光			
副部会長 宮崎 光雄			
3 次回部会日程について			
平成 28 年 9 月 12 日 (月) 09 : 30～			

活力①部会			
役 職	氏 名	選出団体等	備考
部 会 長	西 部 良 治	恵那市地域自治区会長会議（長島町）	
副部会長	森 川 伸 江	恵那市社会教育委員会	
	安 藤 仁 志	恵那市地域自治区会長会議（串原）	
	市 川 眞 吾	明智地域自治区	
	市 川 眞 由 美	若者会議	
	大 島 光 利	NPO法人奥矢作森林塾	
	西 尾 高 司	恵那市体育連盟	
	西 尾 正 仁	山岡地域自治区	
	橋 本 妙 子	恵那市文化振興会	
	渡 辺 正 人	武並地域自治区	
	服 部 紀 史	まちづくり推進部長	兼快適部会
事 務 局	安 藤 克 典	まちづくり推進部移住・定住チーム政策推進監	
〃	岡 田 庄 二	副教育長	
〃	門 野 幸 次 朗	教育委員会事務局長	
〃	松 村 和 佳	教育委員会事務局政策推進監	兼安心部会
〃	瀬 瀬 千 尋	総合戦略・人口減少対策チーム担当係長	
（敬称略）			
決定事項等			
1 部会長、副部会長の選任			
部会長 西部 良治			
副部会長 森川 伸江			
3 次回部会日程について			
平成 28 年 9 月 9 日（金） 10：00～			

活力②部会			
役 職	氏 名	選出団体等	備考
部 会 長	市 川 美 彦	大井地域自治区	
副部会長	後 藤 妙 子	道の駅おばあちゃん市・山岡	
	三 浦 仁 憲	恵那市恵南商工会	
	飯 田 圭 一	日本政策金融公庫 多治見支店	
	市 川 智	笠置地域自治区	
	小 栗 康 正	恵那市観光協会	
	可 知 久 美 子	若者会議	
	千 藤 敏 美	東美濃農業協同組合	
	林 富 美 枝	恵那商工会議所	
	前 田 陽 一	株式会社 大垣共立 恵那支店	
	三 園 了 三	岩村地域自治区	
事 務 局	小 林 敏 博	市長公室長	
〃	小 川 智 明	経済部長	
〃	井 手 成 之	総合戦略・人口減少対策チーム担当係長	
			(敬称略)
決定事項等			
1 部会長、副部会長の選任			
	部会長	市川 美彦	
	副部会長	後藤 妙子	
	副部会長	三浦 仁憲	
3 次回部会日程について			
	平成 28 年 9 月 5 日 (月)	13 : 30 ~	